



去る 2005 年 6 月 26 日～7 月 1 日、パリの OECD（経済協力開発機構）本部でモデル専門家会合等が開催された。さらに 7 月 1 日からブリッセルの欧州委員会を訪問し、同委員会の保有する農業部門の部分均衡モデルである ESIM モデルに関する調査を行った。以下本出張の概要を報告する。

[モデル専門家会合]

本会合では、国際貿易における特惠浸食の効果を吟味する OECD 事務局の進行中のプロジェクトのために必要な知見やモデルの選定とモデルの改良すべき点、データの収集などの情報について広範に渡った意見交換等が行われた。

いくつかの選定候補となる経済モデルの中で、空間均衡モデルは 2 国間貿易の流れを明示して分析することが可能であることや、WTO の合意事項を明示的に分析できることなどがメリットである。他に CAP 改革、欧州と北アフリカ諸国の経済連携、EU の砂糖改革等の分析に使われている CAPRI モデル、米の世界需給モデル、世界貿易を一般均衡の枠組みで分析する GTAP 等の説明が出席した専門家からあった。

過去の特恵浸食の分析結果や、各種モデルの特徴比較、そして事務局が有する AGLINK モデルの特恵浸食分析への利用可能性も検討された。AGLINK モデルとは、OECD が加盟国との協力の下に開発した中期の世界食料需給予測のための部分均衡モデルである。AGLINK モデルは本来、2 国間の貿易の流れ

を明示していないため、そのままでは特惠浸食の分析はできない。そのため特惠浸食分析を行うために AGLINK の改良が必要である。具体的には、モデルでの貿易量の決定を 2 段階に分け、第 1 段階で総貿易量を、第 2 段階で 2 国間の貿易量をそれぞれ決定するというアイデアである。

[AGLINK ユーザーグループ会合]

この会合は、各国が自国の農産物需給見通しや、政策分析等に AGLINK の利用をサポートすることを目的として、2 年に 1 回開催されている。

今回の会議では、事務局から、FAO の協力を得ることによって、モデルにおける OECD 非加盟国を劇的に細分化したこと、EU が 25 カ国に拡大したことに伴い、AGLINK も EU25 カ国に改良した事が報告された。また、協力国による AGLINK の利用の例として、日本側から、北米における BSE の発生による牛肉禁輸措置の経済的影響を測定するシナリオ分析の報告を行った。

また事務局より、OECD 非加盟国の細分化の例として、インド、ブラジルモジュールの報告が行われた。この他、最近 2 年間のモデルの改良事例として、生産費指数の導入、牛乳価格の決定の改良、新たに開発された砂糖モデル、インターネットを経由した AGLINK モデルのドキュメントへのアクセスなどが、事務局から報告された。

[欧州委員会訪問]

ESIM モデルは、1990 年代から欧州委員会が USDA の協力のもとに開発した部分均衡モデルであり、AGLINK よりも広い品目カバレッジを持つという長所がある反面、AGLINK のように時間経過の観念を持たないという短所を有する。国の分類は、EU、その他ヨーロッパ諸国、アメリカ、その他世界という大くくりの分類であり、モデルを記述するソフトウェアは GAMS を使用している。